令和元年度　自己評価実践報告書

学校名　福島県立小野高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

1　『学校経営・運営ビジョンについて』

○『学校経営・運営ビジョン』・・・【別紙】

○教育目標、重点努力目標事項等作成のねらい、意図等

県中地区全体の少子化が進行し、価値観の多様化等、社会の変化に伴い様々な教育改革が求められており、本校においても地域における存在意義を確固たるものとする必要性があります。生徒の大半は地元出身者であり、地元自治体の本校に寄せる期待は大きく、生徒の進路希望も多岐に亘ることから、総合学科としての利点を最大限に活かしながら新たな視点に立って、教育活動全般について改善・充実を図る必要があります。

今年度は、生徒の「夢をカタチ」にすべく『生徒の進路実現』を軸に、４本柱（基礎学力の向上・進路意識の早期高揚・豊かな心の育成・開かれた学校づくり）を重点努力目標としました。」本年度は「基礎学力定着を図る学習支援体制の確立」を目指し、昨年度に引き続き取り組むとともに、地域連携を強化し、生徒の地域理解、地域貢献ができる生徒の育成を目指して取り組みました。

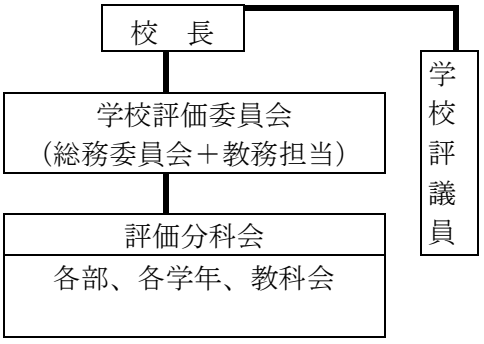
○組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

各部・各学年・各教科ごとに「昨年度の年度末反省」をもとに素案を作成し、教務部で検討・調整し、学校評価委員会（総務委員会）で審議、『学校経営・運営ビジョン』案を作成。職員会議での審議を経て、『学校経営・運営ビジョン』を策定しました。

また、「進学希望者に対する合格支援プロジェクト」の実施にあたり、各部・各学年毎に３年間を見通した進路指導計画を立案しました。また、進路指導部・教務部・特別支援コーディネーター・教育相談係・学習支援員が連携して基礎学力定着を図る目的で学び直しの課外授業「学習くらぶ」を新たに立案し、学習支援体制を確立しました。

2　校内組織体制について

○組織図



学校評価委員会の役割

○学校評価に関わる各種原案作成
・学校評価計画細案
（評価項目の検討、評価表作成）
・調査結果に基づく結果原案及び改善原案（集計結果分析、評価のまとめ）
○各種資料の収集、整理、保管と提供
○その他学校評価に関わること

○作成のねらい、意図

校長の指示のもとに学校評価委員会を設け評価項目を検討し、内部評価（自己評価）及び外部評価を実施し分析を行います。また、この委員会によって、評価活動を推進するとともに改善策を検討し、教育課程をより良いものにし、教職員の資質向上並びに本校教育の活性化を図ることになります。

なお、本校では学校評価委員会は総務委員会が兼ねるものとし、既存の校務分掌に基づく評価分科会を組織し、全教職員で評価・改善に努めることになっております。

3　自己評価年間計画について

○年間評価計画　（学校評議員による外部評価）　○総務委員会　◇職員会議　◎実施項目

期	月	計　画　内　容		外部評価員による外部評価
前期	4	・組織作り ○第1回学校評価委員会開催 ◇学校評価の基本的な考え方の提示 教職員に「学校経営運営ビジョン」の提示および評価計画概要の説明	生徒の生活状況と指導の評価（全職員）	・保護者に趣意説明文および「学校経営運営ビジョン」配布
	5	○第2回学校評価委員会開催 学校評価計画の細案検討ならびに評価項目の検討①	各校務分掌毎の評価	・「学校経営運営ビジョン」「学校評価に関わる校内組織を含む自己評価計画」県・学校評議員に提出（随時、学校評議員による授業参観等）
	6	○第3回学校評価委員会開催 評価項目の検討②		
	9	◎第1回学校評価(職員・生徒) ◎自己評価中間報告 ○第4回学校評価委員会開催 評価の集計、結果のまとめ、分析結果の検討と改善点の確認 ◇総合的な評価の中間まとめと報告 問題点の整理と改善策の検討、成果と課題および改善策の共通理解	学校行事の評価	・学校評価実施案内の配布 ・学校教育と学校行事の評価（保護者・学校評議員等） ・「中間評価報告書」
後期	10			（学校評議員による授業参観等） ・学校評価実施案内の配布
	12	◎第2回学校評価(職員・生徒) ○第5回学校評価委員会開催 評価の集計、結果のまとめ、分析結果の検討と改善点の確認 ◇総合的な評価のまとめと報告 問題点の整理と改善策の検討、成果と課題および改善策の共通理解		・学校教育と学校行事の評価（保護者・学校評議員等） ・「自己評価実践報告書」の作成
	1			
	2	○第6回学校評価委員会開催		・学校評議員による評価書の提出
	3	次年度学校経営運営ビジョンの策定、次年度評価計画の検討		・評価結果の公表と説明

○各調査内容

（１）学校教育評価票

①学校教育評価票Ａ（教職員用）

②学校教育評価票Ｂ（生徒用）

③学校教育評価票Ｃ（保護者用）

④学校教育評価票Ｄ（学校評議員用）

（2）学校行事評価票

○内部評価と外部評価

NO.	調　査　名		対 象 者	担当分科会	実施時期	評　価	
						内部	外部
1	学校教育評価	A	教職員	学校評価委員会	夏休み明け・冬休み前(2回実施)	○	
		B	生　徒		夏休み明け・冬休み前(2回実施)	○	
		C	保護者		夏休み明け・冬休み前(2回実施)		○
		D	学校評議員		学校評議員会		○
2	学校行事評価 ○球技大会　○遠足 ○職場体験実習 ○ｼﾞｭﾆｱｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ ○体育祭　等		教職員 生　徒 保護者 学校評議員 地域住民等	行事担当者が必要に応じて、計画・実施	行事実施後		
3	担任評価 ○学級担任○教科担任		教職員 生　徒	教師が各自、計画・実施	学期末 学期末	○ ○	

Ⅱ－１　評価結果の概要

1　実施時期・実施方法

○計画の意図

『学校経営・運営ビジョン』の重点目標について、下記の尺度に基づきアンケート用紙の配布・回答の回収により実施しました。

評価	4	3	2	1
評価基準	できた あてはまる	ほぼできた ややあてはまる	あまりできなかった あまりあてはまらない	できなかった あてはまらない

＜第１回アンケート＞

評　価　者		中　間　評　価	
		実　施　時　期	実 施 方 法
教　職　員		９月　３日 ～　９月　５日	アンケート
教職員以外	生　徒	９月　３日	〃
	保護者	９月　３日 ～　９月　９日	〃

＜第２回アンケート＞

評　価　者		年　度　末　評　価	
		実　施　時　期	実 施 方 法
教　職　員		１２月　６日 ～ １２月１０日	アンケート
教職員以外	生　徒	１２月　６日	〃
	保護者	１２月　６日 ～ １２月１３日	〃

○実施しての反省

実施にあたってアンケート項目の内容について検討し、その上で前年度との比較がしやすいように形式を踏襲しました。

その結果、生徒・保護者・教職員三者の現状を把握することができました。まだ質問に対する三者それぞれのとらえ方や意識の相違が感じられる回答結果があるので、次年度以降、質問内容等更に創意工夫をしていきます。

2　評価者及び回答数

＜第１回アンケート＞

評　価　者		中　間　評　価		
		対象者数	回 答 数	回　答　率
教　職　員		３３	３３	１００．０％
教職員以外	生　徒	２４４	２４２	９８．８％
	保護者	２４４	２１９	８９．７％

＜第２回アンケート＞

評　価　者		年　度　末　評　価		
		対象者数	回 答 数	回　答　率
教　職　員		３３	３３	１００．０％
教職員以外	生　徒	２４２	２３７	９７．９％
	保護者	２４２	２１０	８６．４％

○回答数の分析

これまで継続して、「学校評価の重要性」の周知等を行ってきたこともあり、保護者からの第１回アンケートの回収率は、例年と同程度であり、高い回答率を維持しています。生徒・保護者に対する「学校評価の重要性」の周知を図り、来年度実施予定の評価アンケートでは、より一層の保護者の御協力を要請し、有意義なものとしていきます。

3　評価基準・項目について

各関係校務分掌における自己評価の尺度は、達成度を数値化できるものについては達成度割合で評価を予定していますが、今回の年度末評価では下記の尺度に基づき自己評価を行いました。

評価	A	B	C	D
評価基準	８５％以上 よくできた	８４～６０％ ほぼできた	５９～２５％ あまりできなかった	２５％未満 できなかった

○実施しての反省

今年度の『学校経営・運営ビジョン』の重点目標に対して、各関係校務分掌がそれらを達成すべく精選された項目について、観点別に評価を行いました。項目や質問事項を固定化することで複数年の傾向等が把握できるメリットがありますが、一部の評価項目および観点について、現状と課題に適した内容へ見直しを進めていきたいと思います。

4　年度末評価のまとめ

○年度末評価実施の目的・意図

昨年度の学校評価を基にして、年度始めに『学校経営・運営ビジョン』を策定し、『進路の実現』を軸にした重点目標を掲げ、達成に向けて努力してきました。

年度末における本校教育活動の自己評価を通して、重点目標がどの程度達成されているかを把握するとともに、来年度の『学校経営・運営ビジョン』の策定、及び今後の教育活動の改善材料として行うものです。

○年度末評価結果の分析、及び結果状況

【別紙】①令和元年度　年度末評価アンケート分析結果・集計結果
②令和元年度　年度末反省 各部・各学年・各科

○分析に基づく来年度に向けての改善点

今回の年度末評価での結果をもとに、改善できる点や新たに取り入れられる点について再検討し、来年度の本校教育活動に活かしたいと考えております。特に主だったアンケート結果等を分析すると以下のとおりです。

①教育方針・目標・課程　質問事項＜３　学校生活の充実＞＜５　学校の特色＞

本校では、特色ある学校づくりを図るために県中地区唯一の総合学科として４系列の充実を目指して授業内容の改善や指導力向上に組織的に取り組んできました。

学校規模から比較すると設置している部活動数も多く、農業クラブや家庭クラブ等充実した活動を今年度も展開してきました。八重山農林高校との生徒交流をはじめとする小野町など地域と連携した取組も継続し、特色ある学校づくりを推進してきました。一方でアンケートの結果から生徒が充分に充実感を感じているとは言えず、生徒の自己肯定感や学校の特色への自信につなげるために次年度改善して取り組みたいと考えています。

②生徒の進路実現　質問事項　＜５　適性と進路＞

今年度は、生徒の進路実現のために、１年次から総合学科として取り組める授業展開を行いました。関係各部と連携しながら学年主任を中心として３年間を見通した進路指計画を立案し、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通じて、生徒自らがライフプランについて考え、早期に進路目標が持てるように支援しました。

しかし、アンケートの結果から生徒が適正と進路を十分に理解して進路活動に取り組んでいるとは言えず、今後も継続して改善と工夫を重ねていきたいと思います。次年度は、ホームルーム活動など様々な機会で生徒を支援するとともに、希望進路実現を図るために各学年の保護者へ適切にアプローチし､協力を得ていきたいと考えます。

依然として、一部の生徒は与えられた課題には真面目に取り組みますが、それ自体が目的化してしまい、自らの進路ビジョンを主体的に捉えることができずにいます。学校生活を通じて、自らの進路について考え、学び続けることの意義など意識を高めながら、早期に進路目標が持てるような支援を時間をかけて行う必要性があります。

③生徒の進路実現　質問事項　＜７　進路相談＞　＜８　個別指導＞

この項目に関して前年度の結果を踏まえて各学年の対応として生徒個別面談や三者面談、ホームルーム活動等に積極的に取り組みました。しかし、結果から考察すると依然として生徒や保護者の認識は低く、働きかけが不足していたと思われます。特に１・２年の保護者に対しては、進路情報の提供や面談などが不足している面もあったと思われます。今後は、進路指導部が中心となって年間計画で適切な時期を設定し、教員が生徒や保護者と進路について十分に話し合う機会を準備していきたいと思います。また、各学年で「進路の手引き」や科目選択説明会、１年次科目「産業社会と人間」の活用等も検討し、早期から適切な進路情報の提供を図りたいと思います。

また、生徒の進路決定は、保護者の理解と協力が必要不可欠であることから、入学後の早期から「進路相談」の必要性を保護者に理解していただくために、次年度は面接週間の実施時期や実施回数の見直しを図りたいと思います。加えて、生徒や保護者との懇談の充実、「学年だより」の充実等の情報提供について方策を講じていきます。

進路に関する個別指導については、３学年が中心となって進められていることもあり、生徒の理解も進級と共に高まっていく傾向が見られます。実際には、１学年からの進学者向け個別指導を実施している教科もあることから、全生徒への周知について改善していきたいと思います。

④基礎学力の向上　質問事項　＜１１　学習の定着＞

今年度は新たに地元小野町からの小野高校支援事業の一環として、学び直しによる基礎学力の定着を目指した学習支援事業「学習くらぶ」を実施しました。学習くらぶでは、放課後に学び直しの課外授業を年間５２日６６講座実施しました。参加生徒の成長など変容は顕著であり、効果的な取組として広くその成果を周知していく必要があります。

その一方で前年と同様に教職員の回答からは、基礎学力の定着は未だ不十分であるとの認識が感じられます。年間を通して朝自習や週末課題、漢字テスト等様々な方法で生徒に対する学習支援を行っていますが、今年度も地域からの支援を受けて「新聞を活用した学習への取組」など学習支援策も継続しています。取組自体が目的化することがないように、本来の学習目標を意識して取り組んでいきたいと考えています。

次年度は、「ホームルーム」や「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」を通じて、なぜ学習しなければならないのか自らが考え、明確な学習目標が持てるような取組を時間をかけて支援し、その目標に向かって総合学科の強みを生かして取組むことが学習意欲につながるものと考えています。

⑤基礎学力の向上　質問事項　＜１４　科目選択＞

前年度は、教職員の評価が低い傾向が見られましたが、今年度は、新入生や保護者に対して丁寧な説明を行い、次年度の科目選択についても担任や学年、教務が連携して、個別支援の充実に努めたことにより、生徒の理解が深められたようです。

今後も総合学科特有の複雑な科目選択のミスマッチを防ぐとともに、重複履修などのミスが発生しないように教務部と学年団が連携して対応し複数チェック体制を徹底していきたいと考えています。

⑥開かれた学校づくり　質問事項　＜２６　ボランティア＞

生徒の低い評価を分析すると、ボランティア活動に対して、授業や学校管理下での教育活動の一つとして認識している生徒が多く、一部の生徒は主体的に取り組む意識が薄い傾向も感じられます。生徒にボランティアの定義を理解し、奉仕の精神等も含めて主体性を持って取り組めるように指導していくことで次年度改善を図りたいと考えています。

⑦開かれた学校づくり　質問事項　＜２７　学校からの情報発信＞

昨年度に引き続き高評価となっています。この要因としては、渉外広報部とＰＴＡが協力して、ＰＴＡ会報の充実に積極的に取り組んでいることや、数年前から「小野町広報」を毎月掲載していただき地域に開かれた学校づくりを実践している広報活動が定着していることが挙げられます。

また、今年度は、各種行事や生徒交流事業等、学校生活の様子や大会報告を速やかに学校ホームページに更新してきたことも要因になっていると思われます。

質問項目＜２３　中学校への紹介＞とも重複しますが、昨年度から新たな取組として試行された小野高だよりを、内容の充実を図りながら継続して発行しています。学校評議員からの助言等を参考にした取組ですが、入学者選抜での出願等への効果も感じられることから､今後も発行回数等見直しながら継続していきたいと考えています。

また、新聞やテレビ、ラジオなどの各報道機関と連携し、特色ある取組に関する情報発信に今後も努めていきます。

今後、改善の必要な項目を検証し、今後も総合学科の魅力をわかりやすく伝えられるよう、さらにホームページ等を有効に活用できるようにしていきます。

Ⅲ　広報の概要

1　目的や意図

『学校経営・運営ビジョン』を生徒・保護者に示し、学校・家庭・地域が三位一体となって生徒の健全育成・進路実現に向けて本校の教育活動全般の充実を図っていく必要があります。

地元住民の多くが本校出身者であり、“地元の学校”として本校に寄せる期待は大きいものがあります。総合学科の特性を最大限に生かしながら、地域住民の理解や地域との連携のもと、学んでいく力の育成・集団や社会を形成していく力の育成・自らの人生を切り開いていく力の育成に努めて参ります。

2　実施状況、配布対象、配布方法等

○実施時期・内容等

実施時期	実施内容	対象	配布方法
４月	ＰＴＡ総会 『学校経営・運営ビジョン』の配布・説明 （ホームページへの掲載含む）	保護者	出席者に配布 （欠席者は生徒を通して配布）
５月	『学校経営・運営ビジョン』に対する 中間アンケート	生徒 保護者	生徒を通して配布
１０月	ＰＴＡ講演会・保護者会 ＰＴＡ会報『あぶくま』の配布 （中間報告）	生徒 保護者	出席者に配布 （欠席者は生徒を通して配布）
１２月	『学校経営・運営ビジョン』に対する 年度末アンケート	生徒 保護者	生徒を通して配布
３月	卒業式 ＰＴＡ会報『あぶくま』の配布 （年度末報告）	生徒 保護者	３年保護者に配布 １・２年保護者には生徒を通して配布
毎月	小野町広報 （各月の主な行事や大会報告）	地域 住民	町役場による全戸配布

3　実施しての反省

今年度もアンケートの回収率が９０％程度と高水準を維持しており、保護者の学校に対する期待や注目度が高いことを裏付ける結果となっています。学校に対する要望等を真摯に受け止めながら学校側の教育方針についても更なる理解を求め、学校・家庭そして地域が一体となっての教育活動を実践していく指針としていきます。

Ⅳ　次年度に向けて

1　学校評価（自己評価）の特徴、成果等

外部評価として学校評議員から様々な指摘や助言等をいただくことで、新たな視点で本校の教育活動を改善していくことができます。福島県内でも少子化・価値観の多様化等、社会の変化に伴い様々な教育改革・学校改革が進められている状況で、本校も地域のニーズに応えながら総合学科としての特長を生かし、本校の目指す社会に有為な人材の育成に努めていかなければならないと感じています。

小野町・石垣市交流事業「沖縄県立八重山農林高等学校との生徒交流派遣研修」での交流活動など本校独自の特色ある取組や、特に地域と連携して取り組んできた小野町連携事業６次化新商品開発での成果が多方面で評価されました。加えて放送部が地域に根ざした映像・音声作品を多数制作し、県大会入賞や東北大会出場等、地域振興の一助となる活動を展開し、その成果を広くＰＲすることでこの地域における存在意義を高めることができました。

今後とも、地域に根ざした教育活動を実践し、積極的な情報発信を進め、地域に開かれた学校づくりを実践していきます。

2　次年度に向けての課題、改善点等

県中地区唯一の総合学科校として４系列の特色ある教育活動を充実させるとともに、本校の強みを生かした地域と連携した取組や様々な交流活動を推進していきます。

また、本年度も、ホームページの充実や新しい学校パンフレットの作成、さらには中学生向け学校だよりの発行など情報発信に力を注ぎ、課題であった学校からの情報発信を迅速に提供できる校内体制の確立を図ることができたと考えます。今後は、よりよいものに改善しながら維持していきたいと考えています。

さらに、基礎学力の定着と向上を目指した学習支援事業「学習くらぶ」も充実した内容で２年目の実施を終えることができました。生徒が教員から「与えられる学び」から「自ら進んで取り組む学び」にシフトしていけるように全体指導・個別支援体制を確立していくことが学校のさらなる活性化につながるものと考えます。

また、小野町との連携事業についても生徒交流事業のみならず、学習支援や進路・就職支援対策などに継続して取り組み､地域とともに歩む生徒支援の展開を目指していきます。

3　終わりに

最後に、『学校経営・運営ビジョン』にもとづく『進路の実現』について進路内定状況を分析したところ、前年度より就職希望者が多い状況下で、地元就職をはじめとする生徒の希望進路実現へのきめ細かなサポートができ、良好な結果となりました。

また、本年度は１年次より進路実現に向けての系統的な取り組みを行うことや地域連携の実践により、生徒の進学実現に向けての意識を高めることができました。

今後は高まった生徒の進路意識を継続させ、進路目標が実現できるよう、今後もより一層の進路指導の充実を目指し､日々の教育活動の改善を図っていきたいと考えております。